

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26870294

研究課題名(和文) 生存基盤の確保と環境運動 インド・ウッタラーカンド地方における森林・水問題

研究課題名(英文) Sustainable Humansphere and Environmental Movements: Forest and Water Problems in the Uttarakhand, India

研究代表者

石坂 晋哉 (ISHIZAKA, Shinya)

愛媛大学・法文学部・准教授

研究者番号：20525068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、環境問題の成否を「生存基盤の確保」という側面から評価するための方法論を構築することを目指し、具体的事例として、北インド・ウッタラーカンド地方におけるチプコー(森林保護)運動とテーリー・ダム反対運動をとりあげて検討した。本研究の全体としての成果は英文単著にまとめて刊行予定である。このうち例えばチプコー運動に関しては、ウッタラーカンド地方の森林管理のあり方が運動前後でどう変化し、その変化に際し運動がどう寄与していたかという問題設定をしたうえで分析を行い、域外民間企業による森林伐採を阻止したのは運動の大きな成果であったことなどを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to design the methodology for evaluating those aspects, which contribute to ensuring the sustainable humansphere, in environmental movements. We picked up the Chipko (forest protection) movement and the Anti-Tehri dam Movement as case studies. The outcomes of this research project will be published as a monograph. As for the Chipko movement, we first focused on the transformation of forest management policy in the Uttarakhand, and then, analyzed how the movement contributed to the transformation. As a result, we revealed that, for example, the expulsion of the non-local logging companies from the region was one of the main achievement of the movement.

研究分野：総合人文社会

キーワード：インド

1. 研究開始当初の背景

社会運動研究一般においては、運動の、政策や人びとの意識への影響を分析する研究は始まったばかりである。しかしインド環境運動研究では、「サバルタン（従属させられる者たち）」の要求・不満や権利・権益がどれほど満たされたかという点から運動を評価する分析が支配的である。しかし、サバルタンの願いや主張を絶対視し、その充足度を運動評価の唯一の基準にするべきではない。運動がもたらすさまざまな副次的効果をも含め、より総合的に運動を評価する方法論を確立する必要があった。

他方、人びとの豊かさや発展の度合いを測る指標としては、経済的な生活水準の向上を示す「一人当たり所得」が広く使われているが、所得だけでなく教育や健康の側面も取り込んだ「人間開発」指数が注目を集めるようになった。近年さらに、そうした人間圏の論理のみならず、地球圏や生命圏の論理を含めた「生存基盤」指数の整備が進められている。人間が生命を維持し社会生活を送るためには、水やエネルギーへのアクセス、食料・原料の確保が不可欠である。したがって、特に環境運動の成否を判断する場合は、経済的利益や権利の確保だけでなく、「生存基盤」確保の達成度に注目することが有益である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、環境運動の成否を「生存基盤の確保」という側面から評価するための方法論を構築することである。

具体的には、北インド・ウッタラーカンド地方のチプコー運動（1973～1981年）とテーリー・ダム反対運動（1978～2006年）をとりあげて、運動がもたらすさまざまな成果・効果を、「生存基盤の確保」という観点から、総合的に理解することをめざす。

また同時に本研究では、ウッタラーカンド地方の人びとの生存基盤の状況が、森林・水問題をめぐる環境運動との関連で、1970～2000年代の30年間にわたり、どのように推移してきたかを浮き彫りにすることを目指す。社会運動が地域変容に果たした役割を把握しようとする本研究のアプローチは、運動への注目を通じて地域変容の内的ダイナミズムに迫るものでもある。

3. 研究の方法

(1) 平成26(2014)年8～9月に4週間の現地フィールドワークを行い、関係者へのインタビューと資料収集を行った。

ウッタラーカンド地方東部のダラムガルを訪れ、環境活動家サララー・ベーン(1901-1982)の関係者に会い、サララー・ベーンがウッタラーカンド地方に滞在していた当時のサララー・ベーンの活動や、当時の現地社会の様子について、また、サララー・ベーンの活動が次世代にどのように引き継がれたのかなどについてインタビューを行

った。また、サララー・ベーンの著作(英語、ヒンディー語)を収集した。

ウッタラーカンド地方東部のゲンゴーリーを訪れ、地元の活動家や政治家などに会い、ウッタラーカンド地方農村の社会や政治等について、インタビューを行った。

ウッタラーカンド地方西部のラクシュモリを訪れ、テーリー・ダムなどの問題に詳しいジャーナリストに会い、テーリー・ダムをはじめガンガー水系上流部のさまざまなダム建設計画の問題点等について、インタビューを行った。

ウッタラーカンド地方西部のデーラードゥーンを訪れ、チプコー運動とテーリー・ダム運動に従事したスングルラル・パフグナーに会い、運動のことなどについて、インタビューを行った。

ウッタラーカンド地方西部のカーリーを訪れ、環境活動家でありチプコー運動やテーリー・ダム反対運動に参加したドゥーム・スイン・ネーギーに会い、運動について、また、ウッタラーカンド地方の社会や人びとの生活について、インタビューを行った。

ウッタラーカンド地方西部のニューテーリーを訪れ、ジャーナリスト等に会い、テーリー・ダム反対運動のことなどについて、インタビューを行った。

(2) 平成27(2015)年11月に、インド・ウッタラーカンド地方の社会運動を研究しているオーストラリア・ウーロンゴン大学のトレント・ブラウン氏を招聘して研究交流を行った。

(3) インタビュー結果や収集した資料の整理・分析を行うとともに、その成果を国内外の学会等で発表した。

4. 研究成果

(1) 社会運動分析の方法論

編著『インドの社会運動と民主主義 変革を求める人びと』では、序論において、社会運動の捉え方に関する理論的・方法論的考察をまとめた。

(2) チプコー運動

共編著 *Democratic Transformation and the Vernacular Public Arena in India* の担当章(“Re-evaluating the Chipko (Forest Protection) Movement: The Emergence of Vernacular Publics in the Uttarakhand”)では、チプコー運動の成果・効果に関して、ウッタラーカンド地方の森林管理のあり方が運動前後でどう変化し、その変化に際し運動がどう寄与していたかという問題設定をしたうえで分析を

行い、民間企業（特に域外の）による森林伐採を阻止したのは運動の大きな成果であったことや、森林保護を通じた環境保全という価値が重視されるようになったのは運動だけではなく当時のインド中央の環境派政治家・官僚の力も大きかったことなどを具体的に明らかにした。また、その分析に際しては、運動内外のアクターを整理したうえで、個別のフレーミング自体が変化しつつ影響しあう動態を捉えるという方法を提示した。

(3) 国内外へのインパクトと今後の展望

本研究の全体構想や成果の一部について、学会等において、日本語、英語で発信を試みた。平成 26（2014）年 7 月にアデレード（オーストラリア）での学会で発表をした折には、オーストラリア・ウーロンゴン大学においてインド・ウッタラーカンド地方の社会運動について研究しているトレント・ブラウン氏と出会い、翌年の平成 27（2015）年 11 月にブラウン氏を日本に招聘するなど、研究交流が続いている。現在、ブラウン氏との共著論文を執筆中である。また、本研究の成果は、英文単著にまとめて刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

- (1) 石坂晋哉 2015 「ガーンディー主義」佐島隆・岩崎真哉・村田隆志・佐藤史郎編『国際学入門—言語・文化・地域から考える』法律文化社、106-111 査読無
- (2) 中溝和弥・石坂晋哉 2014 「民主政治と社会運動—制度と運動のダイナミズム」田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『多様性社会の挑戦』シリーズ現代インド 1 東京大学出版会、305-332 査読無

〔学会発表〕（計 11 件）

- (1) 石坂晋哉 2016 「ウッタラーカンドの政治と社会—開発・環境・災害と人びとの力」インド州政治研究会、2016 年 1 月 23 日、長崎県立大学シーボルト校国際情報学部西棟 4 階会議室（長崎県・西彼杵郡長与町）
- (2) 石坂晋哉 2015 「下層民の台頭と「社会主義」—R・M・ローヒヤーの運動論(1)」「ローカル・リーダーの登場と下層民の台頭からみる現代インド社会の変容」研究会、2015 年 12 月 21 日、龍谷大学深草学舎和顔館 4 階・会議室 2（京都府・京都市）
- (3) BROWN, Trent, 2015, “Sustainable Agriculture and Social Power: Case Studies from India,” KINDAS グループ 1-C 「南アジアの資源・環境問題」第 6 回研究会、2015 年 11 月 20 日、京都大学百万遍キャンパス（吉田キャンパス本部構内）総合研究 2 号館 4 階大会議室（AA477 室）（京都府・京都市）
- (4) BROWN, Trent, 2015, “Agriculture,

Development and Environmental Movement in India,” Lecture Meeting: Agriculture, Development and Environmental Movement in India, 2015 年 11 月 17 日、愛媛大学城北キャンパス総合研究棟 2（4 階）政治系共同研究室（443 室）（愛媛県・松山市）

(5) ISHIZAKA, Shinya, 2015, “Comments for the Second Session: Society and Culture,” FINDAS International Conference “Social Transformation and Cultural Change in South Asia: From the Perspectives of the Socio-Economic Periphery,” 2015 年 11 月 14 日、大東文化大学東松山キャンパス管理棟 3 階大会議室（埼玉県・東松山市）

(6) 石坂晋哉 2015 「生存権としての知る権利—インドにおける情報に関する権利運動の展開」「現代南アジアにおける法と権利の動態をめぐる研究」研究会、2015 年 7 月 25 日、静岡大学静岡キャンパス共通教育 L 棟 117（静岡県・静岡市）

(7) ISHIZAKA, Shinya, 2015, “Chipko Movement and the Transformation of Forest Management System: Beyond Analyses Based on Problematic Dichotomy of Environment versus Development,” International Convention of Asia Scholars 9, July 8, 2015, Room L1B, Adelaide Convention Centre アデレード（オーストラリア）

(8) ISHIZAKA, Shinya, 2015, “Book Review: Makiko Kimura, The Nellie Massacre of 1983: Agency of Rioters, New Delhi: Sage, 2013,” International Convention of Asia Scholars 9, 2015 年 7 月 6 日, Riverbank Room 8A, Adelaide Convention Centre アデレード（オーストラリア）

(9) 石坂晋哉 2015 「インド森林の管理・利用をめぐる政治過程」KINDAS 研究グループ 1 研究会、2015 年 1 月 25 日、京都大学川端キャンパス（吉田キャンパス薬学部構内）稲盛財団記念館小会議室 II（京都府・京都市）

(10) ISHIZAKA, Shinya, 2014, “Chipko (Forest Protection) Movement in Uttarakhand History,” SNU-INDAS International Conference “Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia,” December 15, 2014, India Habitat Centre ニューデリー（インド）

(11) 石坂晋哉 2014 「環境、開発、生存基盤—インドにおける森林管理・利用と森林保護運動」第 87 回日本社会学会大会、2014 年 11 月 22 日、神戸大学文理農学部キャンパス農学部 B 棟 4 階 B401 教室（兵庫県・神戸市）

〔図書〕（計 2 件）

- (1) 石坂晋哉（編）2015 『インドの社会運動と民主主義—変革を求めた人びと』昭和堂、300p
- (2) NEYAZI, Taberez Ahmed, Akio TANABE and Shinya ISHIZAKA (eds), 2014, *Democratic Transformation and the Vernacular Public Arena*

in India, London: Routledge, 221p

6 . 研究組織

(1)研究代表者

石坂 晋哉 (ISHIZAKA, Shinya)

愛媛大学・法文学部・准教授

研究者番号：20525068